

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500094
法人名	医療法人河辺整形外科
事業所名	グループホームひまわりのたね
所在地	愛媛県伊予郡松前町大字昌農内347-1
自己評価作成日	平成29年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 2 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「焦らず、怒らず、諦めず」の理念を念頭に置き、優しい介護が提供できるよう心掛けています。利用者様のできることとできないことを把握し、できないことはお手伝いし、できることは自分で又は一緒に行うようにしています。利用者様とご家族様が笑顔でいられるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念と地域密着型サービスの意義を巧みに絡ませたケアを実践し、事業所が地域に深く根をおろしていけるよう努力を重ねている。日常的な挨拶、地域の行事への参加など、地域との交流が積極的に行われている。家族の意見や要望を傾聴し、利用者本位の支援ができるよう介護計画を軸に職員と共に考え支援している。社交的な利用者も多く来訪者に積極的に笑顔で声をかけるなど、気持ち癒され場の雰囲気もよい。利用者の思いや意向に気を配り、利用者ができることを担い張り合いのある生活が送れるよう職員一丸となり支援に努めている。看取り経験の豊富な看護師のおかげで、職員は気持ちにゆとりを持って終末期の利用者を看取ることができている。管理者と職員は、認知症になっても利用者一人ひとりが人生の先輩として尊敬され続けるべきだと考え、日々業務に励んでいる。今後も職員同士お互い協力し合い、利用者が明るく笑顔いっぱい過ごせる事業所を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわりのたね

(ユニット名) 柿

記入者(管理者)
氏名 松田加代子

評価完了日 平成 29年 1月 17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「焦らず・怒らず・諦めず」の理念を基本に、優しい介護の実践に努めている。昌農内の大家族としてリビングに掲示し確認できるようにしている。	
			(外部評価) 理念を軸にゆとりと憩いの安心快適な事業所として、利用者が日々安らぎの生活が送れるようきめ細やかな支援を積み重ねている。職員は焦らず怒らず諦めることなく業務に励んでおり、地域に深く根をおろし地域に欠かせない事業所としての役割を担えるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 施設の行事に地域の方をお招きし、地域の行事には利用者とスタッフが参加できるよう努めている。可能な限り散歩に出るようにしており、地域の方との触れ合いのきっかけとなればと思っている。	
			(外部評価) 町内会に入会し地域の行事等を把握している。その他の地域の情報は、運営推進会議に出席の区長や民生委員から得ている。散歩は日常的に行っており、近隣住民とはあいさつや会話をしたり、七草や南天、菊、水仙、コスモスなどをもらうなどの関係になっている。また、子供相撲大会や運動会等行事に参加したり、資源回収の段ボールを寄付するなど、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の中でスタッフが利用者の介護を行うことが認知症介護の啓蒙活動につながると考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議ではホームの活動報告と活動計画、事故報告など様々な事柄について報告し、ご意見をいただきサービス向上に活かせるよう心掛けている。会議内容についてはホーム内2か所に掲示し家族やスタッフに周知している。開催を土曜にしたりイベントに絡めたりして参加を促している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の開催を通じ、地域住民とより緊密な関係になっている。意見の中には指摘事項等もあるが、反省すべきところは前向きに検討し改善するなど、ステップアップに繋げている。避難訓練などの行事と同時に開催する工夫をしたり、会議の年間開催日程を早めに決め出席予定者に案内し、予定が立てやすいと好評である。</p>	<p>次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)</p> <p>運営推進会議に出席しやすい日程や時間帯に調整したり、議題についても災害等話題性のあるものにするなど工夫しているが、職員の出席が少なめなので、全職員が交替で会議に出席し、内容もさらに充実させ活性化が図れるよう期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 町保険課や地域包括支援センターとは定期的に交流し、困ったときは助けていただいている。</p> <p>(外部評価) 利用者の意見を聴く社会福祉協議会の介護相談員が月に1回、傾聴ボランティアの訪問が月3回ある。また、町保健課には困り事があれば、その都度相談し課題解決につながっているほか、地域包括支援センターとは事業所の空き状況の情報交換を行っている。</p>	<p>次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)</p>
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についてはスタッフ全員理解できている。2階のため危険防止のため出入り口の施錠はしている。</p> <p>(外部評価) 安全面に留意し利用者が自由に行動できるよう支援している。夜眠れない方は、日中は極力日光に当たり昼寝はせず活動してもらおうなど配慮し、なるべく安眠剤に頼らない支援に取り組んでいる。家族の理解にも恵まれ、利用者は安心して抑圧感のない生活を続けている。</p>	<p>次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)</p>

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法律について十分理解できているとは言えないが、虐待はしてはいけないことということはスタッフ全員が理解しており、行っていない。優しい介護を目指している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がなく今後勉強していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際、十分な説明を行い、理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設内に意見箱を設置しているが、実績はなくご家族や地域の方も直接管理者やスタッフに意見を言うことができている。意見については運営に反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 家族の来訪時に利用者の近況を報告し、要望や意見をいただいている。利用者にはそれぞれ担当者がいるが、全職員が利用者一人ひとりの状態を把握できるよう努めている。遠方の家族には、請求書にコメントを添えて送ったり、必要なことを電話で話し合うなど密に連絡を取り家族の要望等を確認している。管理者は、利用者本位のケアを常に考え、職員全員一致団結し業務が遂行できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は日々の業務の中で職員の意見を引き出すよう努めている。場合によっては代表者に伝えている。	
			(外部評価) 管理者は職員のストレスを軽減するため、不安を感じる職員だけでなく一人ずつ時間を取り丁寧に面談するよう努めている。職員は管理者を意見を言ったり相談しやすい存在であると思っており、安心して仕事ができる環境であると感謝している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職場環境や条件について向上できるよう努めているが、スタッフ全員が満足できているとは言えない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の参加があまりできなかったもので、今後計画していく。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 交流ができるよう努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に本人と面接し信頼関係が築けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に家族の希望や思いを十分に聞き信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時には暫定ケアプランを策定し、必要な支援が提供できるよう努めている。 利用者とスタッフは1対1でかかわることも多い。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々の話し合いを大切にし生活の場として暮らせるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族来所の際は情報提供を心掛けている。良いことも悪いこともありのまま伝えることが信頼につながっているように思う。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や近所の人が時々面会に来られるが、出かけていくことはあまりない。 面会に来られた時はゆっくり過ごせるよう配慮している。 (外部評価) 入居時に家族からの聞き取りなどにより馴染みの関係を把握し、培ってきた人間関係や社会関係などが継続できるよう努めている。家族以外の面会者については家族に報告するなどし、引き続き面会してもらえよう訪問の継続に鋭意努めている。また、家族の協力を得て先祖のお墓参りをするなど、昔から大切にしている場所にも行けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が良好な関係でいられるよう職員が潤滑油となるような支援に努めている。同じテーブルでの会話やティッシュペーパーをとってあげるなどの光景が見られる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて支援できるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) なるべく一人一人の意向や気持ちを把握できるよう努めている。利用者の気持ちがわからないときは本人の気持ちになって考えるようにしている。	
			(外部評価) レクリエーションを行う時には、利用者一人ひとりからやりたいことを聞き、希望を叶えるようにしている。利用者のできることやできそうなことを、職員が見守りながら一緒に行うなど、自立支援に努めている。利用者が日々笑顔で張り合いのある生活が送れるよう役割や出番を作り担ってもらい、職員から利用者へ「ありがとうございます」と感謝の言葉を伝えるようにしている。表情や態度から帰宅願望が感じられた時には、声かけや雰囲気作りを工夫し、「事業所で生活してよかった」と利用者へ思ってもらえるような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常的に話をする中で本人から話を聞き出したり、家族から聞いたことなどをスタッフで共有できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者が毎月モニタリングを行い見直しをしている。 プラン変更時にはなるべく家族を交えたカンファレンスを持つようにしている。	
			(外部評価) カンファレンスに家族が同席するなど、要望等を介護計画に活かせるようにしている。担当者はモニタリングで利用者が何を求め何を必要としているかを確認し、利用者の視点で新しい計画を作成し、家族に説明し承認を得ている。介護記録は利用者の表情やしぐさ、行動など個別に事細かく丁寧に記載しているほか、気づきやアイデアは、申し送りノートに漏れないようまとめ共有し、ケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランに添った記録を心掛けておりモニタリングに活かせるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて支援できるよう努めている。 小規模多機能のお出掛けに便乗したりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 傾聴ボランティアやダンス、音楽のボランティアさんが来てくださっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は在宅から継続してもらっている。情報 交換を密にし、適切かつ迅速な医療が受けられるよう 心掛けている。	
			(外部評価) 家族の協力により受診しており、診断内容は職員と共 有し健康管理に努めている。主治医の判断での血液検 査や歯科の往診が適宜受けられるなど配慮されてい る。またインフルエンザの予防接種や手洗いの励行、 食後の歯磨きやうがいなど、感染症予防にも努めてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常や心配があるときは所属に関係なく看護職員に相 談できる協力体制ができています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は病院の連携室と連絡をとりスムーズに 退院できるよう心掛けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時には簡単な意向確認をしている。状態に応じて 家族・医師・職員とで相談し方針を決定している。	
			(外部評価) 看取りは、終末期の生活支援マニュアルに沿って進め られ、事業所としてできることできないことをその都 度家族に説明し同意を得ている。過去に4名の看取り 経験があり、看取った職員は可愛がってもらった思い 出や感謝の気持ちが蘇り、家族同様寂しさが募り思い 出が走馬灯のように浮かんでくるが、看取り経験のある 看護師や頼りになるベテランの管理者との連携で乗 り越えることができいい経験となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 訓練は実施できていないが、経験者も多く実践力のあるスタッフが多い。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練を行っている。秋には家族や地域の消防団の方も参加していただき訓練ができた。	
			(外部評価) 日中と夜間を想定し、年1回は消防署の指導のもと地域住民の参加も得て避難訓練を実施している。管理者や職員は消防署主催の避難訓練や救命講習等に参加し、アドバイスを受けるなど災害に備えている。備蓄品としてシチューなど長期保存が可能な缶詰や水などを準備し、賞味期限も定期的に確認できている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを人生の先輩として対応するよう心掛けている。	
			(外部評価) 呼び名は姓で○○さんと呼ぶよう全職員に徹底しているほか、入室時のノックは必ず忘れないよう心がけている。食事の食べこぼしは、さりげなく拭くなど利用者のプライドを尊重した支援に努めている。また、毎日電気カミソリで髭剃りを行うなど整容等にも気を配り、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊敬した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が話しやすい雰囲気作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく希望をうかがうようにしているが、入浴や食事などホームの都合で決めているところがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に近所の理容師さんに来てもらっている。おしゃれとまではいかないが、清潔を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや食器の片づけなどできることはなるべく一緒にしていただいている。 普段は1汁3菜を心掛け、誕生日にはおすしとケーキでお祝いするようにしている。	
			(外部評価) 管理者が献立を作成し、ユニットごとに担当職員が彩りなど工夫し調理している。誕生日にはちらし寿司や赤飯、ケーキなどの特別メニューにするほか、利用者の状態によりミキサー食の対応もしており、利用者が楽しんで食事ができるよう配慮している。また、利用者には食事の準備など、できる人ができる時に手伝ってもらえるよう自立支援にも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食食事摂取量のチェックを行い、少ない場合は食べれる工夫をしている。水分摂取が少ない場合は飲みやすいものの提供をしたり、ゼリーにしたりと工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは習慣となっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) その人に応じた排泄ケアができるよう支援している。徐々にレベルが低下してくるが、なるべくトイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の生きる意欲や自信回復のため、トイレでの排泄の自立を積極的に支援している。利用者一人ひとりの排泄パターンや状態をよく把握し、紙パンツやパットの交換を適切に行ったり、排便がスムーズにできるよう声かけのタイミング等には気をつけるなど、支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤のみに頼ることなく、食事・運動・トイレに座ることなどで便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ホームの都合で予定しているが、柔軟に対応している。なるべく気持ちよく安心安全に入浴していただくよう心掛けている。	
			(外部評価) 入浴前には必ず血圧や体温測定を行い、安心して入浴できるよう支援している。風呂を嫌がる場合は、立位になった時を見計らい「リビングでお茶でも飲みませんか」と声をかけ、風呂へ誘導するなど工夫しており、職員のチームワークにより利用者も風呂を楽しめ、入浴後に「気持ちよかった」とゆっくりくつろぐなど、利用者の気持ちを尊重した支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中は活動していただくようにしているが、希望に応じて居室で休んでもらったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認は何重にも行い誤薬がないよう努めている。薬の目的や副作用については個々で確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションを行う際は個々の得意なことを取り入れるようにしている。1日1回笑えるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力で行きたいところへ行ける人もいる。ホームでは行けるところは限られるが、なるべく希望に沿って外出できるよう努めている。	
			(外部評価) 一日中事業所内で過ごすことがないよう時間を作り、天気の良い日には外に出て日光に当たるようにしている。車いすの利用者も1階まで降りて、併設事業所の利用者と会話するなど、気分転換もしている。また、家族や民生委員の心強い協力により近くのコミュニティーひろばでお花見をしたり、時には、いちご狩りや商業施設、海等の遠方にドライブに行くなどの外出支援にも努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者が金銭を管理することはない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が家族の声が聴きたい時には電話をつなぎ話してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節感のある壁面飾りや置物を置くようにしている。壁面はなるべく利用者とともに作成したものを取り入れている。共用の場所は毎日掃除をして気持ちよく生活できるよう支援している。 (外部評価) 共用空間の壁面には、今年の干支の酉や節分などの作品が飾られている。掃除が行き届いており気持ちがよく、居心地よく過ごすことができる。玄関に入ると「寒中お見舞い申し上げます。風邪に気をつけて」と書かれたウエルカムボードがあり、とても第一印象がよく親しみやすく気軽に出入りできる事業所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各々テーブルの自席に座ったりソファに座ったりしている。時には誘導し利用者同士の交流ができるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は自由に配置し飾っていただいている。場合によってはクローゼットが開けられないようにしないといけないこともあるが、できるだけ馴染みの物が置けるようにしている。 (外部評価) 居室には大きなクローゼットがあり、必要な衣類や物品が収納されている。ソファやタンス、テレビ、家族の写真、年賀状など、本人にとって大切な宝物でいっぱいの空間になっている。食後は各居室で休む利用者も多く、安心して落ち着いた気分でゆったりとした時間を過ごせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレに張り紙をしたり居室に名前を貼ったり迷わず自分で行けるように配慮している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3893500094
法人名	医療法人河辺整形外科
事業所名	グループホームひまわりのたね
所在地	愛媛県伊予郡松前町大字昌農内347-1
自己評価作成日	平成29年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 29 年 2 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「焦らず、怒らず、諦めず」の理念を念頭に置き、優しい介護が提供できるよう心掛けています。利用者様のできることとできないことを把握し、できないことはお手伝いし、できることは自分で又は一緒に行うようにしています。利用者様とご家族様が笑顔でいられるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念と地域密着型サービスの意義を巧みに絡ませたケアを実践し、事業所が地域に深く根をおろしていけるよう努力を重ねている。日常的な挨拶、地域の行事への参加など、地域との交流が積極的に行われている。家族の意見や要望を傾聴し、利用者本位の支援ができるよう介護計画を軸に職員と共に考え支援している。社会的な利用者も多く来訪者に積極的に笑顔で声をかけるなど、気持ち癒され場の雰囲気もよい。利用者の思いや意向に気を配り、利用者ができることを担い張り合いのある生活が送れるよう職員一丸となり支援に努めている。看取り経験の豊富な看護師のおかげで、職員は気持ちにゆとりを持って終末期の利用者を看取ることができている。管理者と職員は、認知症になっても利用者一人ひとりが人生の先輩として尊敬され続けるべきだと考え、日々業務に励んでいる。今後も職員同士お互い協力し合い、利用者が明るく笑顔いっぱい過ごせる事業所を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひまわりのたね

(ユニット名) 桃

記入者(管理者)
氏名 松田加代子

評価完了日 平成 29年 1月 17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「焦らず・怒らず・諦めず」の理念を基本に、優しい介護の実践に努めている。昌農内の大家族としてリビングに掲示し確認できるようにしている。	
			(外部評価) 理念を軸にゆとりと憩いの安心快適な事業所として、利用者が日々安らぎの生活が送れるようきめ細やかな支援を積み重ねている。職員は焦らず怒らず諦めることなく業務に励んでおり、地域に深く根をおろし地域に欠かせない事業所としての役割を担えるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 施設の行事に地域の方をお招きし、地域の行事には利用者とスタッフが参加できるよう努めている。可能な限り散歩に出るようにしており、地域の方との触れ合いのきっかけとなればと思っている。	
			(外部評価) 町内会に入会し地域の行事等を把握している。その他の地域の情報は、運営推進会議に出席の区長や民生委員から得ている。散歩は日常的に行っており、近隣住民とはあいさつや会話をしたり、七草や南天、菊、水仙、コスモスなどをもらうなどの関係になっている。また、子供相撲大会や運動会等行事に参加したり、資源回収の段ボールを寄付するなど、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の中でスタッフが利用者の介護を行うことが認知症介護の啓蒙活動につながると考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議ではホームの活動報告と活動計画、事故報告など様々な事柄について報告し、ご意見をいただきサービス向上に活かせるよう心掛けている。会議内容についてはホーム内2か所に掲示し家族やスタッフに周知している。開催を土曜にしたりイベントに絡めたり参加を促している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議の開催を通じ、地域住民とより緊密な関係になっている。意見の中には指摘事項等もあるが、反省すべきところは前向きに検討し改善するなど、ステップアップに繋げている。避難訓練などの行事と同時に開催する工夫をしたり、会議の年間開催日程を早めに決め出席予定者に案内し、予定が立てやすいと好評である。</p>	<p>運営推進会議に出席しやすい日程や時間帯に調整したり、議題についても災害等話題性のあるものにするなど工夫しているが、職員の出席が少なめなので、全職員が交替で会議に出席し、内容もさらに充実させ活性化が図れるよう期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 町保険課や地域包括支援センターとは定期的に交流し、困ったときは助けていただいている。</p> <p>(外部評価) 利用者の意見を聴く社会福祉協議会の介護相談員が月に1回、傾聴ボランティアの訪問が月3回ある。また、町保健課には困り事があれば、その都度相談し課題解決につながっているほか、地域包括支援センターとは事業所の空き状況の情報交換を行っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についてはスタッフ全員が理解している。2階であり危険防止のため出入口は施錠している。</p> <p>(外部評価) 安全面に留意し利用者が自由に行動できるよう支援している。夜眠れない方は、日中は極力日光に当たり昼寝はせず活動してもらおうなど配慮し、なるべく安眠剤に頼らない支援に取り組んでいる。家族の理解にも恵まれ、利用者は安心して抑圧感のない生活を続けている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法律について十分理解できているとは言えないが、虐待はしてはいけないことということはスタッフ全員が理解しており、行っていない。優しい介護を目指している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在対象者がなく今後勉強していく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際、十分な説明を行い、理解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 施設内に意見箱を設置しているが、実績はなくご家族や地域の方も直接管理者やスタッフに意見を言うことができている。意見については運営に反映できるよう努めている。	
			(外部評価) 家族の来訪時に利用者の近況を報告し、要望や意見をいただいている。利用者にはそれぞれ担当者がいるが、全職員が利用者一人ひとりの状態を把握するよう努めている。遠方の家族には、請求書にコメントを添えて送ったり、必要なことを電話で話し合うなど密に連絡を取り家族の要望等を確認している。管理者は、利用者本位のケアを常に考え、職員全員一致団結し業務が遂行できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者は日々の業務の中で職員の意見を引き出すよう努めている。場合によっては代表者に伝えている。	
			(外部評価) 管理者は職員のストレスを軽減するため、不安を感じる職員だけでなく一人ずつ時間を取り丁寧に面談するよう努めている。職員は管理者を意見を言ったり相談しやすい存在であると思っており、安心して仕事ができる環境であると感謝している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職場環境や条件について向上できるよう努めているが、スタッフ全員が満足できているとは言えない。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の参加があまりできなかったもので、今後計画していく。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 交流ができるよう努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に本人と面接し信頼関係が築けるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始前に家族の希望や思いを十分に聞き信頼関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用開始時には暫定ケアプランを策定し、必要な支援が提供できるよう努めている。 利用者とスタッフは1対1でかかわることも多い。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個々の話し合いを大切にし生活の場として暮らせるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族来所の際は情報提供を心掛けている。良いことも悪いこともありのまま伝えることが信頼につながっているように思う。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人や近所の人が時々面会に来られるが、出かけていくことはあまりない。 面会に来られた時はゆっくり過ごせるよう配慮している。 (外部評価) 入居時に家族からの聞き取りなどにより馴染みの関係を把握し、培ってきた人間関係や社会関係などが継続できるよう努めている。家族以外の面会者については家族に報告するなどし、引き続き面会してもらえよう訪問の継続に鋭意努めている。また、家族の協力を得て先祖のお墓参りをするなど、昔から大切にしている場所にも行けるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が良好な関係でいられるよう職員が潤滑油となるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて支援できるよう努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) なるべく一人一人の意向や気持ちを把握できるよう努めている。利用者の気持ちがわからないときは本人の気持ちになって考えるようにしている。	
			(外部評価) レクリエーションを行う時には、利用者一人ひとりからやりたいことを聞き、希望を叶えるようにしている。利用者のできることやできそうなことを、職員が見守りながら一緒に行うなど、自立支援に努めている。利用者が日々笑顔で張り合いのある生活が送れるよう役割や出番を作り担ってもらい、職員から利用者へ「ありがとうございます」と感謝の言葉を伝えるようにしている。表情や態度から帰宅願望が感じられた時には、声かけや雰囲気作りを工夫し、「事業所で生活してよかった」と利用者へ思ってもらえるような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日常的に話をする中で本人から話を聞き出したり、家族から聞いたことなどをスタッフで共有できるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、把握できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 担当者が毎月モニタリングを行い見直しをしている。 プラン変更時にはなるべく家族を交えたカンファレンスを持つようにしている。	
			(外部評価) カンファレンスに家族が同席するなど、要望等を介護計画に活かせるようにしている。担当者はモニタリングで利用者が何を求め何を必要としているかを確認し、利用者の視点で新しい計画を作成し、家族に説明し承認を得ている。介護記録は利用者の表情やしぐさ、行動など個別に事細かく丁寧に記載しているほか、気づきやアイデアは、申し送りノートに漏れないようまとめ共有し、ケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランに添った記録を心掛けておりモニタリングに活かせるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じて支援できるよう努めている。 小規模多機能のお出掛けに便乗したりしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 傾聴ボランティアやダンス・音楽のボランティアが来てくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は在宅から継続してもらっている。情報 交換を密にし、適切かつ迅速な医療が受けられるよう 心掛けている。	
			(外部評価) 家族の協力により受診しており、診断内容は職員と共 有し健康管理に努めている。主治医の判断での血液検 査や歯科の往診が適宜受けられるなど配慮されてい る。またインフルエンザの予防接種や手洗いの励行、 食後の歯磨きやうがいなど、感染症予防にも努めてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 異常や心配があるときは所属に関係なく看護職員に相 談できる協力体制ができています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合は病院の連携室と連絡をとりスムーズに 退院できるよう心掛けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時には簡単な意向確認をしている。状態に応じて 家族・医師・職員とで相談し方針を決定している。	
			(外部評価) 看取りは、終末期の生活支援マニュアルに沿って進め られ、事業所としてできることできないことをその都 度家族に説明し同意を得ている。過去に4名の看取り 経験があり、看取った職員は可愛がってもらった思い 出や感謝の気持ちが蘇り、家族同様寂しさが募り思い 出が走馬灯のように浮かんでくるが、看取り経験のある 看護師や頼りになるベテランの管理者との連携で乗 り越えることができいい経験となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 訓練は実施できていない。今後施設内外での研修参加をする予定。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回の消防訓練を行っている。秋には家族や地域の消防団の方も参加していただき訓練ができた。	
			(外部評価) 日中と夜間を想定し、年1回は消防署の指導のもと地域住民の参加も得て避難訓練を実施している。管理者や職員は消防署主催の避難訓練や救命講習等に参加し、アドバイスを受けるなど災害に備えている。備蓄品としてシチューなど長期保存が可能な缶詰や水などを準備し、賞味期限も定期的に確認できている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりを人生の先輩として対応するよう心掛けている。	
			(外部評価) 呼び名は姓で○○さんと呼ぶよう全職員に徹底しているほか、入室時のノックは必ず忘れないよう心がけている。食事の食べこぼしは、さりげなく拭くなど利用者のプライドを尊重した支援に努めている。また、毎日電気カミソリで髭剃りを行うなど整容等にも気を配り、利用者一人ひとりを人生の先輩として尊敬した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が話しやすい雰囲気作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく希望をうかがうようにしているが、入浴や食事などホームの都合で決めているところがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に近所の理容師さんに来てもらっている。おしゃれとまではいかないが、清潔を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや食器の片づけなどできることはなるべく一緒にしていただいている。 美味しい！を目標にして提供している。誕生日にはおすしとケーキでお祝いするようにしている。	
			(外部評価) 管理者が献立を作成し、ユニットごとに担当職員が彩りなど工夫し調理している。誕生日にはちらし寿司や赤飯、ケーキなどの特別メニューにするほか、利用者の状態によりミキサー食の対応もしており、利用者が楽しんで食事ができるよう配慮している。また、利用者には食事の準備など、できる人ができる時に手伝ってもらえるよう自立支援にも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食食事摂取量のチェックを行い、少ない場合は食べれる工夫をしている。水分摂取が少ない場合は飲みやすいものの提供をしたり、ゼリーにしたりと工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアは習慣となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) その人に応じた排泄ケアができるよう支援している。徐々にレベルが低下してくるが、なるべくトイレで排泄できるように支援している。	
			(外部評価) 利用者の生きる意欲や自信回復のため、トイレでの排泄の自立を積極的に支援している。利用者一人ひとりの排泄パターンや状態をよく把握し、紙パンツやパットの交換を適切に行ったり、排便がスムーズにできるよう声かけのタイミング等には気をつけるなど、支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 下剤のみに頼ることなく、食事・運動・トイレに座ることなどで便秘予防に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ホームの都合で予定しているが、柔軟に対応している。なるべく気持ちよく安心安全に入浴していただくよう心掛けている。	
			(外部評価) 入浴前には必ず血圧や体温測定を行い、安心して入浴できるよう支援している。風呂を嫌がる場合は、立位になった時を見計らい「リビングでお茶でも飲みませんか」と声をかけ、風呂へ誘導するなど工夫しており、職員のチームワークにより利用者も風呂を楽しめ、入浴後に「気持ちよかった」とゆっくりくつろぐなど、利用者の気持ちを尊重した支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中は活動していただくようにしているが、希望に応じて居室で休んでもらったりしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬確認は何重にも行い誤薬がないよう努めている。薬の目的や副作用については個々で確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) レクリエーションを行う際は個々の得意なことを取り入れるようにしている。1日1回笑えるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 家族の協力で行きたいところへ行ける人もいる。ホームでは行けるところは限られるが、なるべく希望に沿って外出できるよう努めている。	
			(外部評価) 一日中事業所内で過ごすことがないよう時間を作り、天気の良い日には外に出て日光に当たるようにしている。車いすの利用者も1階まで降りて、併設事業所の利用者と会話するなど、気分転換もしている。また、家族や民生委員の心強い協力により近くのコミュニティーひろばでお花見をしたり、時には、いちご狩りや商業施設、海等の遠方にドライブに行くなどの外出支援にも努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者が金銭を管理することはない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が家族の声が聴きたい時には電話をつなぎ話してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングには季節感のある壁面飾りや置物を置くようにしている。壁面はなるべく利用者とともに作成したものを取り入れている。共用の場所は毎日掃除をして気持ちよく生活できるよう支援している。 (外部評価) 共用空間の壁面には、今年の干支の酉や節分などの作品が飾られている。掃除が行き届いており気持ちがよく、居心地よく過ごすことができる。玄関に入ると「寒中お見舞い申し上げます。風邪に気をつけて」と書かれたウエルカムボードがあり、とても第一印象がよく親しみやすく気軽に出入りできる事業所である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 各々テーブルの自席に座ったりソファに座ったりしている。時には誘導し利用者同士の交流ができるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は自由に配置し飾っていただいている。場合によってはクローゼットが開けられないようにしないといけないこともあるが、できるだけ馴染みの物が置けるようにしている。 (外部評価) 居室には大きなクローゼットがあり、必要な衣類や物品が収納されている。ソファやタンス、テレビ、家族の写真、年賀状など、本人にとって大切な宝物でいっぱいの空間になっている。食後は各居室で休む利用者も多く、安心して落ち着いた気分でゆったりとした時間を過ごせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレに張り紙をしたり居室に名前を貼ったり迷わず自分で行けるように配慮している。	